

No.2516

日本文化人類学会 50 周年記念国際研究大会 (IUAES 2014 合同開催)

国際高等研究所 副所長

小泉 潤二

りそなアジア・オセアニア財団の平成 26 年度国際交流活動助成により、日本文化人類学会 50 周年記念国際研究大会 (IUAES2014 合同開催 <http://www.iaaes.org/japan2014/>) に対してご支援をいただいた。この大会は日本文化人類学会の 50 周年記念事業として、2014 年 5 月 15 日 (木) ~2014 年 5 月 18 日 (日) に千葉の幕張メッセで開かれたものである。IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences 国際人類学民族科学連合 <http://www.iaaes.org/>) の中間会議との合同開催となったこの国際会議には、1,046 人が参加し、うち 463 人は海外 59 カ国の研究者だった。会期後半の 2 日間には同会場内で日本文化人類学会第 48 回研究大会が行われ、これを加えれば約 1400 人が参加したことになる。IUAES に加えて WCAA (World Council of Anthropological Associations 人類学会世界協議会 <http://www.wcaanet.org/>) が全面協力し、そのほか 11 の国際学会と国内 4 学会が協力団体となった。本大会の全体テーマは The Future with/of Anthropologies (「人類学^{あした}の明日、人類学との明日」) である。このテーマのもと、137 のシンポジウム・パネル・ラウンドテーブルのほか、3 つの基調講演が行われた。なかでも本助成により、WCAA による記念シンポジウム「WCAA の過去と未来」、ブラジル人類学会 (ABA) による特別パネル「ブラジルの人類学の現在と未来」、および芸術人類学の特別パネル「収斂する世界——人類学と芸術史」に、各国の代表的研究者たちを招聘することができた。これにより、人類学の多元的視座と新たな可能性が示され、現代世界の諸課題に対して人類学は何ができるか、何を研究しどのように相互に協力すべきかについて、きわめて有意義な議論が集中的に行われた。また、これまで十分に知られてこなかった日本の文化人類学による知的集積を、全世界に対して公開・発信するとともに、グローバルな研究者間交流を促進することが可能となった。